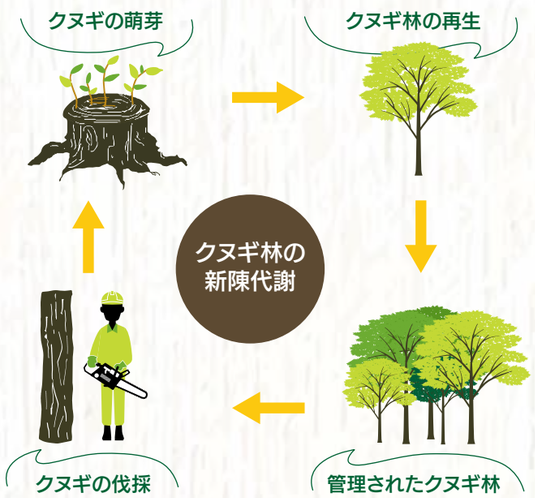
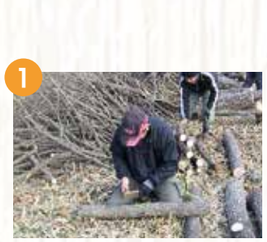
クヌギの循環システムと食料生産システム

特徴的な地理条件下において、自然環境がクヌギの生育に適していることから、人々の生活の糧として、しいたけ栽培の原木や薪炭用材として盛んに里山に植林されてきた国東市。クヌギは、伐採しても切り株から萌芽し再生するため、木材資源が循環するという優れた特性を持っています。植林されたクヌギ林は、約15年後に原木しいたけ栽培に適したサイズとなり、しいたけの成長に必要な栄養源を供給し、大分県のしいたけ生産量を支えているのです。



日本最大面積！大分県はクヌギ大国！

大分県のクヌギの蓄積量は、全国の約24%を占め日本最大です。中でも、この国東地域の森林面積に占めるクヌギ林の割合は、県平均を上回っています。



1 原木の玉切り・駒打ち［1～3月］

伐採から1～2カ月後、約1mの長さに切断。玉切りされた原木に電気ドリルで植え穴を開け、しいたけ菌が入った種駒を打ち込む。

2 伏せ込み［1～3月］

種駒を打った原木は、しいたけの菌が増えやすい場所に置く。風通しがよく、日光が直接当たらない場所がよい。

3 ほだ場へ移動

伏せ込んだ後2年目の秋が訪れた時に、しいたけの発生に適した場所（ほだ場）へ原木を移します。

4 発生、採取、乾燥

しいたけは主に春と秋に発生し、ほだ木から数年はしいたけが採取できる。採取したしいたけを乾燥機で1日程度乾燥させると「乾しいたけ」が完成。

国東の乾しいたけはうまい！世界農業遺産の恵みを味わってください

冬菇 どんこ

晩冬から早春にかけて寒い時にゆっくりと成長。鍋物などにするとおいしい。

香菇 こうこ

冬菇と香信の中間で、肉厚・大型。見栄えもよく、ステーキやバーベキューなどにおススメです。

香信 こうしん

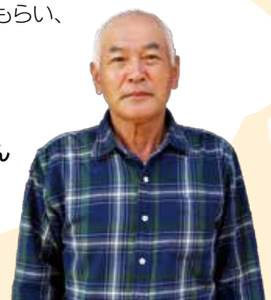
傘が7分開きになった状態で採取。スライスやみじん切りの料理に最適です。

私は年間1,300～1,500㎏のしいたけを栽培するしいたけ生産者です。

他の生産者の高齢化や後継者不足などからしいたけを作り始めました。しいたけの生産量は減少傾向となっていますが、国東半島の気候はしいたけの栽培がしやすくとても魅力的なんです。

その魅力を多くの人に知ってもらい、体が動く限り栽培を続けていきたいですね。

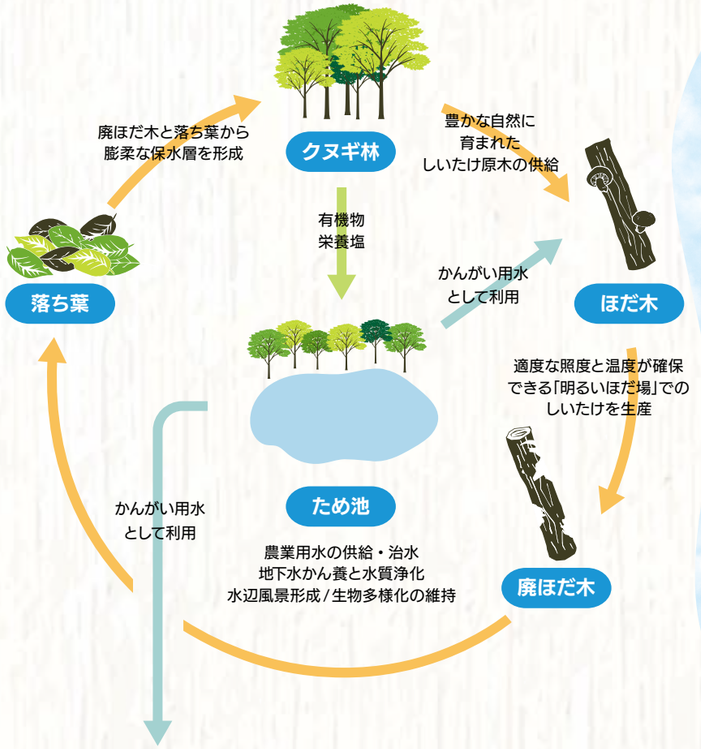
しいたけ生産者
吉武 和久 さん



「足りない水」との闘いの歴史―世界に誇るシステムの継承

クヌギ林とため池群によって持続的に維持されている日本一の原木しいたけ生産をはじめとする農林水産業システム

日本一の蓄積量を誇るクヌギ林と複数のため池が連携したシステムは、水稲をはじめ、同じように多くの水を使う七島藺や原木しいたけなどの個性豊かな農林産物を育み、この地の多様な自然環境と相まって、豊かな生物多様性を保全してきました。また、六郷満山文化のもと多くの農耕にまつわる民俗行事が今も継承されています。



水田農業には厳しい環境

国東半島宇佐地域の地形は、中央部にある両子山系の峰々から放射状に延びた尾根と深い谷、平野部は狭小で短く急勾配な河川が多数あるのが特徴。また、降水量が少なく、雨水が浸透しやすい火山性の土壌であるため、水不足が深刻でした。そのため安定的に農業を行うには、ため池が必要不可欠でした。

※国東市武蔵：気象庁統計（2003～2010年）
日　　本：国土交通省統計（1971～2000年）

国内唯一の七島藺産地 | 現代に生きる中世の荘園（田染荘・豊後高田市）

自動織機にかける前の七島藺

松原さん宅にある自動織機

い草より丈夫でツヤがある畳表

畳表とならない部分も工芸品に！

ため池から水を引き、愛情を持って七島藺の栽培をしています。市内では私を含め、農家は5軒と生産者の減少が課題です。生産者の増大のため、新規就農者のトレーニングコーチとして、今までの知識や技術を伝えています。

国内唯一の生産地として、地域になじむ栽培方法や水の大切さなどを伝えながら、今後も栽培を続けていきたいです。

七島藺生産者
松原　正 さん